

大分県書道 令和4年度前期 特別資格試験 課題

(令和4年7月28日必着)

種類	1、漢字条幅	2、楷書	3、行書	4、草書	5、隸書	6、篆書	7、随意	8、仮名条幅	9、仮名	10、調和体	11、実用書	12、硬筆		
用紙の大きさ	半切 (縦に使用)	半紙			半紙			半切 (縦に使用)	半紙 (料紙)	半紙	半紙	5・6年 中学 一般用		
課題	落絮游糸空散漫 野情幽思欲如何		<p style="text-align: center;">林疎鳥宿難</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">林疎鳥 宿難</p> </div> <p style="text-align: center;">(半紙に二行に書く)</p>			県書道の課題以外の古典を臨書する。(五〜六字)			君が行く海辺の宿に霧立たば 我が立ち嘆く息と知りませ		夏雲の湧きて定まる心あり 毎日厳しい暑さが続きますが 皆様お変わりなくお過ごしのことと思います。 いつまでもお元気でありますように。 (市町村名 姓名又は姓号)			丸の内と八重洲は、実はどちらも白杵に縁がある。丸の内は白杵出身の荘田平五郎がオフィス街建設に手腕を振るった。八重洲は白杵に漂着したオランダ船リーフデ号の乗組員のヤン・ヨーステンが住んでいたことから、名前にちなんで付けられた。 (市町村名 姓名又は姓号)
備考	落絮游糸空しく散漫 野情幽思如何せん と欲す(呂誠)		林疎にして鳥宿し難し (李中)			法帖名を受験票・出品票に書くこと。			君が行く海辺の宿に霧立たば 我が立ち嘆く息と知りませ 遣新羅使の妻(『万葉集』卷十五・三五八〇 奈良時代)		夏雲の湧きて定まる心あり (中村汀女) ①行書で書くこと。 ②行変えは自由。 ③市町村名、姓名(または号)を書くこと。			①行書で書くこと。 ②各行の文字数や行数などの配列は、自分で考えて書くこと。 (大分合同新聞の記事より)